

2019年 活動報告会 実施報告書

◆日時 2019年6月28日(金)16:00-20:30

◆場所 ホテル法華クラブ仙台

◆出席者 56名(会員企業41名、協賛企業2名、事務局/関係者13名)

(会員企業) 29社41名

日本製鉄株式会社 東北支店、三菱商事株式会社 東北支社、日鉄物産株式会社 東北支社、三井物産株式会社 東北支社、日鉄エンジニアリング株式会社 東北支店、日鉄建材株式会社、日鉄建材株式会社 東北支社、イシグロ株式会社、株式会社今弘スチール、株式会社佐藤ホールディングス、佐藤製線販売株式会社、住友商事東北株式会社、高田産商株式会社、田中合名会社、東成鋼管株式会社、東北企業株式会社、東洋特殊鋼業株式会社、株式会社富田製作所、株式会社ニッコー、日鉄鋼板株式会社、日鉄スラグ製品株式会社、日鉄テクノロジー株式会社、日鉄物流株式会社、日鉄ポルテン株式会社、日鉄溶接工業株式会社、日本鐵板株式会社、株式会社福島ビルテック、株式会社メタルワン 東北支社

(協カチーム)1社1名

株式会社プレイザーズスポーツクラブ

(協力企業) 1社3名

キリンビバレッジ株式会社 東北支社、キリンビバレッジ株式会社 近畿圏地区本部

(事務局/関係者) 11名

◆式次第

1. ご挨拶 <実行委員長 筈口基宏>
2. 協カチームの堺プレイザーズより協賛品の贈呈 <プレイザーズスポーツクラブ 事業部長 清川健一様>
3. 活動報告 DVD 上映
4. 2018年度活動報告・2019年度活動計画、2018年度収支報告・2019年度予算計画 <事務局 吉野睦美>
5. 2019年度以降の活動計画・質疑応答

堺プレイザーズ・キリンコラボ自販機のご案内



(左)主催者代表 筈口実行委員長からの挨拶 (中央左)堺プレイザーズより協賛品の贈呈 (中央右)筈口実行委員長からの2019年度以降の計画発表 (右)プレイザーズ・キリンコラボ自販機のご案内

* 頂きました協賛品は、福島イベント、名取イベントで活躍した選手へ、一部を本日も集まりの会員企業の方々へ贈呈されます



(左)翼 tasku さんのミニコンサート (中央左)パネルディスカッション (中央右)抽選会
(右)三井物産株式会社理事 加賀谷正樹東北支社長より中締めのご発声

◆佐藤製線販売株式会社 林社長より

■友情ネットの6年間の活動を振り返った感想

①有意義な活動だと思いますし、子供たちの成長の一翼を担っていただいていると思います。

特に技術を磨くことも大切ですが、スポーツは友達を作り心の教育にとって最も大切です。

②社会人として最も大事な規律、協調性、コミュニケーション能力を培うことが出来ると思います。

仲間と力を合わせて目的を達成できた経験は、社会人になって困難に遭遇した際の心の支えになると思っています。

■活動を通じてよかったこと／印象に残っていること

①名取イベント、巡回指導見学での子供たちのはじける笑顔と元気な姿を見て元気をもらいました。

②第4期の対象校で母校がお世話になりました。

巡回指導にも参加させていただき地元の友人や先生からも感謝の言葉を頂いています。

③斉藤真由美さんと名取市教育長との対談で最良の教師は「子供たちの心に火をともし」と言われていますが友情ネットのイベントにはその力があると教育長が話されていたことが印象に残っています。

■逆に改善が必要と思われること

①このイベントはある福島の方からの一本の電話から始まり「子供たちが原発の放射能の影響で屋外でスポーツが出来ないので屋内で思いきり体を動かせる機会を作って欲しい」と言うことに対し日鉄さんが立ち上がったと聞いています。

震災から8年が経過して限定された地域を除いて除染もほぼ完了し、屋外でのスポーツは出来る様になったので初期の目的は達成したと思います。よって規模の縮小も含めて一つの区切りだと思っています。

②会員企業はイベント参加と都合の良い日の巡回指導に参加していてそれほど負担にはなっていませんが、指導者の皆様、事務局の皆様の御苦労は大変なものだと思っていました。よって改善が必要だと思っています。

■第二ステップを進めるに留意すべき点、継続するために必要なこと

①企業PRをこれまではほとんど行わず取り組んできたと思いますが、これも少しご検討いただければと思います。日本製鉄様グループの知名度アップは我々会員企業にとってもメリットがあります。

②弊社ではホームページに掲載してリクルートで活用させて頂いています。

■会員企業の立場で心がけてきたこと

①地域貢献の一環として特に名取イベント、福島イベント「福島ビルテック」に積極的に係わって来ました。今後も時代を担う子供たちをスポーツを通じて育成し地域貢献していきたい。

■会員企業が友情ネットに期待すること

①地域、卒業生、学校、先生、保護者の皆様から感謝されているので規模を縮小しても継続していただきたい。

■継続するためにサポート組織を立ち上げるという考え方があると思いますが、どう思いますか

①サポート組織が立ち上げ、主体的に取り組んで核となる福島企業の賛同を震災から10年の2021年までに具体化する協力を皆さんと考えていけばよろしいと思います。

◆高田産商株式会社 沼田社長より

■友情ネットの6年間を振り返って

- ・福島県人として「ありがとう」と言いたい。
- ・立ち上げ当時、新日鐵住金の宮崎支店長や小野主幹に声をかけてもらった。
- ・その熱い思いに伝えたいと思い、賛同させていただいた。
- ・高田産商は白河にあるが、第一期の対象校でお世話になった子供の中に当社社員の子供がいた。(要確認)そういった意味でも私は引き続きこの活動を継続してほしい。

■活動を通じて良かったこと、印象に残っていること

- ・齋藤真由美さんや事務局のメンバーと仲良くなれたこと。(笑)
- ・子供たちのプロジェクトを始めるときの目と、1年過ぎて終わるときの目の輝きが全く違った。保護者の方も同様。
- ・プロの教え方は先生にも良い経験となった。

■改善が必要なこと

- ・会員企業が参加しやすい仕組みも必要。
- ・この活動をもっと周知した方が良い。
- ・こうした良い事例は県教育委員会にも理解してもらった方が良い。

■第2ステップに向けて留意すべき点、継続するために必要なこと

- ・マンネリ化しないようにする工夫が必要。
- ・福島の企業からの協賛をもっと集めても良いのでは。
- ・学校のケアが重要。働き方改革に伴う部活顧問の制約も増加しており、この活動によってカバーできている部分もあると感じる。

■会員企業の立場で心がけてきたこと

- ・関係者に感謝。
- ・自分が社長就任時に入会したこと、社員もお世話になったことを含め、もっと貢献したいと思う。

■会員企業が友情ネットに期待すること

- ・この活動を継続して是非ほしい。
- ・参加してみたらよい活動であることが分かるので理解者を増やしてほしい。
- ・日本製鉄には引き続きこのプロジェクトを引っ張ってほしい。
- ・プロジェクトは6年間で29校関わってもらったが、福島の中学校238校全てに関わってほしい。やり方次第。市単位、郡単位で関わってもらい、イベントに参加してもらう手もある。
- ・この活動は原発の制約から始まっているが、いつまでも特別扱いで良いの？、という気持ちはある。
- ・堺プレイザーズの第2ホーム検討は是非進めてほしい。

■サポート組織について

- ・サポート組織は必要。
- ・現在は日本製鉄にお任せ。
- ・会員企業が委員となってサポート組織を支える考え方もある。
- ・いずれにしても一生の思い出になるプロジェクト。

